

農地整備により耕作放棄地がぶどう産地に変身

ほくとし
【山梨県北杜市】

体制・人材
づくり
栽培作物
・方法
加工・出荷
販売

【工夫のポイント】

- 耕作放棄地を解消するとともに、周辺農用地も含めた一体的な生産基盤によって、優良な農地団地を確保。
- 農地中間管理機構を活用しつつ、**農地を利用者別にゾーニング**することで**参入法人を含む多様な担い手を計画的に確保**。
- 近隣への醸造施設設置により、生産されたぶどうをワインに加工することで更なる高付加価値化を目指す。

耕作放棄地を活用し高収益な生産基盤を形成

- 区画整理や畑地かんがい施設など農業生産基盤の整備を行うことにより、**耕作放棄地を含む34haという大規模な農地団地が形成**され、生産性の向上を実現。



整備されたほ場



ハウスでの水耕栽培

基盤整備
(H24年～)

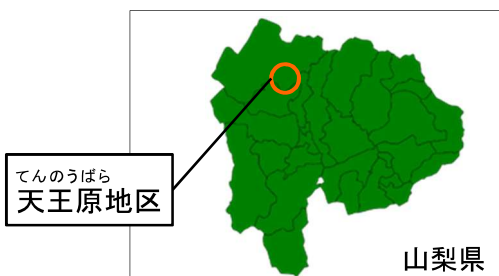
【整備前】

高齢化や他産業への労働力離れによる後継者不足が進み、耕作放棄地が増加していた。また、これらの耕作放棄地が餌場となり、**付近集落の農地へ鳥獣被害が拡大**するなど更なる悪影響も生じていた。



【取組地域の概要】

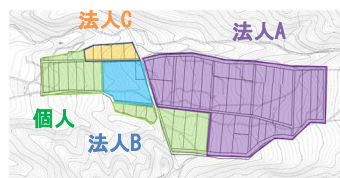
- 位置 ほくとし
山梨県 北杜市



- 主要作物
・だいこん、パプリカ、ぶどう(醸造用)
- 主な支援施策
・農地環境整備事業(H24～H30)
・耕作放棄地再生利用緊急対策交付金
・強い農業づくり交付金
・企業的農業経営推進支援モデル事業(県単)

生産エリア集積による営農の効率化

- 基盤整備により、**個人農家の団地や担い手の誘致を意図した団地など目的別に農地をゾーニング**。計画的な農地利用によってぶどうの生産が活性化。
- パプリカの水耕栽培施設を導入し、新たな産地形成にも取り組む。



生産現場

担い手への農地集積の促進

- 農地を集積・集約化し、農地中間管理機構を活用することで、**法人参入も含めた新たな担い手を確保**。(約8割の農地を担い手に集積)
- 参入法人を始めとする担い手が**地域と一体となって鳥獣被害の防止**に取り組んでいる。



担い手

計画的な農地集約による生産性の向上

- 基盤整備による営農環境の向上を通じて、ぶどう等の作物への転換を図るほか、農地の集約により、**単位面積当たりの販売額が大幅に向上**。
- また、農地近隣に醸造施設を整備し、**ぶどうをワインに加工**するなど**6次産業化を推進**することで**更なる収益力アップ**を目指す。

【醸造用ぶどう】

